

区分	科目	1年次		2年次		3年次		4年次		DP	DP	DP	DP	DP
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	①	②	③	④	⑤
専門科目	専門実技(木管/打楽器/金管)Ⅰ									●		●	●	
	専門実技(木管/打楽器/金管)Ⅱ									●		●	●	
	専門実技(木管/打楽器/金管)Ⅲ									●		●	●	
	専門実技(木管/打楽器/金管)Ⅳ									●		●	●	
	学内演奏(管打楽)									●		●	●	
	卒業演奏(管打楽)									●		●	●	
	副科ピアノⅠ									●		●	●	
	和声初級/和声A									●				
	西洋音楽史										●			
	管打合奏Ⅰ									●		●	●	
	吹奏楽Ⅱ									●		●	●	
	吹奏楽Ⅲ									●		●	●	
	オーケストラ									●		●	●	
	室内楽Ⅰ									●		●	●	
	ソルフェージュA									●				
	副科ピアノⅡ									●		●	●	
	ソルフェージュB									●				
	和声中級/和声B									●				
	和声上級									●				
吹奏楽Ⅳ									●		●	●		
室内楽Ⅱ									●		●	●		
室内楽Ⅲ									●		●	●		
室内楽Ⅳ									●		●	●		
共通科目	一般教養科目										●			
	専門基礎科目										●			
	外国語科目													●

音楽学部器楽科管打楽専攻においては、それぞれの専攻を通じて、芸術家として高い人格と感性あふれる人材を育てることを目的としています。演奏技術の基本、理論と実践を徹底させ、幅広いジャンル、時代様式の音楽へのアプローチを試み、より高度な技能と深い音楽表現を求め、伝統の継承と新しい芸術表現の創造を推進します。

実技科目
 (1)個人レッスン
 専門実技のレッスンでは教員とその人間的、精神的交流を重視し、1～3年次前後期実技試験、4年次の学内及び卒業試験で、18世紀バロックや古典期、19世紀ロマン派、20世紀現代音楽までの幅広い時代様式を身につけます。試演会のような日常的な発表の場や期末試験、学内演奏会、卒業試験といった公式の場を通じて、実践的な演奏の経験を積み重ねていきます。

(2)オーケストラ、吹奏楽、室内楽などのアンサンブル授業
 サクソフーン及びユーフォニアムを除く管打楽専攻ではオーケストラ、吹奏楽、室内楽等の合奏研究も行っています。これらの授業を通して、社会で必要とされるアンサンブル能力を備えた人材育成を目指します。

(3)実技科目以外の授業
 演奏家として必要なソルフェージュ、副科ピアノ、音楽理論、音楽史といった授業が必修とされ、音楽家として欠くことのできない能力と知識を学びます。さらに、深い専門性と豊かな人間性を有した芸術家を養成するために、語学、一般教養科目等の単位も課しています。

カリキュラム
 毎週1コマの個人レッスンに加え、1年次には管打合奏Ⅰと室内楽Ⅰのクラス授業が必修となっています。自分の音を聞くだけでなく、他人の音を聞いて自分をコントロールするアンサンブルの基礎を学びます。
 2年次以降は吹奏楽Ⅱ、Ⅲ、オーケストラ、が必修となり、室内楽Ⅱ～Ⅳと吹奏楽Ⅳが選択科目となります。これらの実技系授業を通じて、プロフェッショナルな演奏家として社会に出ていくための能力を養っていきます。吹奏楽とオーケストラは年間に複数回、定期演奏会などの発表の場があり、貴重な経験を得ることのできる場となっています。
 3年次までは前後期それぞれに期末試験がありますが、3年後期試験は藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演する「モーニングコンサート」出演のオーディションを兼ねています。4年次に行われる学内演奏会では、初めて奏楽堂で演奏する機会が与えられます。学部4年間の集大成となる卒業試験は、各種の新人演奏会出演の選考も同時に行われます。
 他に必修科目となる、ソルフェージュ、和声、西洋音楽史、副科ピアノ、といった音楽関連科目に加えて、語学、一般教養科目を学びます。副科としてピアノの他にさらに別の楽器を学ぶこともできます。
 こうした様々な体験を通じて音楽についての深い学識と高い技術を身につけ、演奏家に必要な優れた能力を養い、社会的要請に応える人材の育成を目指しています。
 所定の期間在学し、必要な授業科目を履修して卒業要件単位を修得した者に学士の学位を授与します。

区分	科目	1年次		2年次		3年次		4年次		DP	DP	DP	DP	DP	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	①	②	③	④	⑤	
専門科目	必修科目	専門実技(金管)Ⅰ								●			●	●	
		専門実技(金管)Ⅱ								●			●	●	
		専門実技(金管)Ⅲ								●			●	●	
		専門実技(金管)Ⅳ								●			●	●	
		学内演奏(管打楽)								●			●	●	
		卒業演奏(管打楽)								●			●	●	
		副科ピアノⅠ								●			●	●	
		和声初級/和声A								●					
		西洋音楽史									●				
		管打合奏Ⅰ								●			●	●	
	選択科目	吹奏楽Ⅰ								●			●	●	
		吹奏楽Ⅱ								●			●	●	
		吹奏楽Ⅲ								●			●	●	
		吹奏楽Ⅳ								●			●	●	
		室内楽Ⅰ								●			●	●	
		ソルフェージュA								●					
		管楽器特殊奏法								●			●	●	
		管楽器オーケストラスタディ								●			●	●	
		21世紀からの演奏法								●			●	●	
		即興創造								●			●	●	
共通科目	ジャズ・コンテンポラリー・アンサンブル								●			●	●		
	副科ピアノⅡ								●			●	●		
	ソルフェージュB								●						
	和声中級/和声B								●						
	和声上級								●						
	室内楽Ⅱ								●			●	●		
	室内楽Ⅲ								●			●	●		
	室内楽Ⅳ								●			●	●		
	一般教養科目										●				
	専門基礎科目										●				
外国語科目													●		

音楽学部器楽科管打楽専攻においては、それぞれの専攻を通じて、芸術家として高い人格と感性あふれる人材を育てることを目的としています。演奏技術の基本、理論と実践を徹底させ、幅広いジャンル、時代様式の音楽へのアプローチを試み、より高度な技能と深い音楽表現を求め、伝統の継承と新しい芸術表現の創造を推進します。

実技科目
 (1)個人レッスン
 専門実技のレッスンでは教員とその人間的、精神的交流を重視し、1～3年次前後期実技試験、4年次の学内及び卒業試験で、18世紀バロックや古典期、19世紀ロマン派、20世紀現代音楽までの幅広い時代様式を身につけます。試演会のような日常的な発表の場や期末試験、学内演奏会、卒業試験といった公式の場を通じて、実践的な演奏の経験を積み重ねていきます。

(2)オーケストラ、吹奏楽、室内楽などのアンサンブル授業
 サクソフーン及びユーフォニアム専攻では、吹奏楽、室内楽等の合奏研究も行っています。これらの授業を通して、社会で必要とされるアンサンブル能力を備えた人材育成を目指します。

(3)実技科目以外の授業
 演奏家として必要なソルフェージュ、副科ピアノ、音楽理論、音楽史といった授業が必修とされ、音楽家として欠くことのできない能力と知識を学びます。また、管楽器特殊奏法、21世紀からの演奏法、即興創造、ジャズ・コンテンポラリー・アンサンブル、といった幅広い分野の授業を選択することも可能です。さらに、深い専門性と豊かな人間性を有した芸術家を養成するために、語学、一般教養科目等の単位も課しています。

カリキュラム
 毎週1コマの個人レッスンに加え、1年次には管打合奏Ⅰと室内楽Ⅰのクラス授業が必修となっています。自分の音を聞くだけでなく、他人の音を聞いて自分をコントロールするアンサンブルの基礎を学びます。
 2年次以降は吹奏楽Ⅱ～Ⅳが必修となり、室内楽Ⅱ～Ⅳが選択科目となります。これらの実技系授業を通じて、プロフェッショナルな演奏家として社会に出ていくための能力を養っていきます。吹奏楽とオーケストラは年間に複数回、定期演奏会などの発表の場があり、貴重な経験を得ることのできる場となっています。
 3年次までは前後期それぞれに期末試験がありますが、3年後期試験は藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演する「モーニングコンサート」出演のオーディションを兼ねています。4年次に行われる学内演奏会では、初めて奏楽堂で演奏する機会が与えられます。学部4年間の集大成となる卒業試験は、各種の新人演奏会出演の選考も同時に行われます。
 他に必修科目となる、ソルフェージュ、和声、西洋音楽史、副科ピアノ、といった音楽関連科目に加えて、語学、一般教養科目を学びます。副科としてピアノの他にさらに別の楽器を学ぶこともできます。
 こうした様々な体験を通じて音楽についての深い学識と高い技術を身につけ、演奏家に必要な優れた能力を養い、社会的要請に応える人材の育成を目指しています。
 所定の期間在学し、必要な授業科目を履修して卒業要件単位を修得した者に学士の学位を授与します。

大学院音楽研究科器楽専攻（管打楽）は、学部で築いた基礎の上に、高度に専門的かつ広範な視野に立ち、音楽についての深遠な学識と技術を授け、職業音楽家として必要な優れた能力を養うこと、さらには自立して研究活動を行うに必要な高い能力を備えた教育研究者の養成も目的としています。

それぞれの研究テーマへの多角的なアプローチを可能にする、さまざまなカリキュラムが用意されています。

学部に引き続き演奏家としての演奏経験を円熟させるために、「器楽実習・楽曲分析演習」、また研究発表の場として、「修士リサイタル」が必修科目として課せられています。「器楽特殊研究」（必修）、「原典特殊講義」（選択）、「音楽研究基礎」（選択）で研究力を高め、さらに藝大フィルハーモニアの協力を得てのオーケストラ実習、室内楽実習等の充実した実技系講座で演奏家としての実務経験を深めます。こうしたカリキュラムを経て優れた演奏家として、また研究者として、大学や公共機関等における芸術分野に関する指導者たり得る人材の育成を目指します。

所定の期間在学し、必要な授業科目を履修して修了要件単位を修得し、修士論文の審査および修士演奏試験に合格した者に修士の学位を授与します。学位授与にあたっては、上記の目的にかかわる達成度を評価します。